

風にWhistle

明日から待っているのは 2006 / 03 / 31 (金)

終日、雪交じりの強い風が吹き荒れた天気。

耐震偽装問題からアメリカ産牛肉輸入問題、国民投票法案などまさに小泉自民党政治の根幹が問われる政治問題が目白押しになっている国会を事実上空白状態にさせた「メール騒動」は、一体何だったのか。メール騒動で迷走民主党は実に異様な醜態をさらけ出して終わろうとしている。民主党執行部の総退陣と、永田議員の辞職という形で落ち着いた。

新代表に小沢一郎氏が上がっているが、彼が代表になった民主党は瓦解しなければいいが。

明日から4月、新しい年度の始まり。国民年金保険料は月額13580円から13860円に引き上げられ、しかし、年金額は物価スライドによる0.2%が減額される。65歳以上の介護保険料(基礎月額)の引き上げあり、障害者の福祉サービス利用のすべて1割の自己負担増が待っている。

春の雪 2006 / 03 / 30 (木)

雪がとけたら何になる? 春になる。ところが昨夜遅くから風と共に春の雪が降ってきた。昨日よりさらに寒い一日となった。

厚手の上着で防寒し、「あなたの一言が、合併した新能代を育てる一歩になる。」その念を抱いてあいさつ回りをする。

子育てに悩むお母さんから電話があった。「間もなく新学期が始まる。入学、進学等の教育費が馬鹿にならない。最近の会社の経営は何処も雇用状況が思わしくなく、当然、家計の収入に響く。どうしたいだろうか。」

小学生や中学生のいる家庭に入学準備金や給食費、学用品等が支給されるほか、高校生のいる家庭では授業料が免除される就学援助制度というのがある。

子供の教育だけはなんとしてもきちんと受けさせるのが親の責任。歯を食いしばってがんばったがどうしても自力で駄目なら、思い切ってこういった制度を利用するために役所を訪ねる方法もある。ただし、就学援助適用基準はある。

一転して冬に逆戻り 2006 / 03 / 29 (水)

昨日の暖かな陽気から一転して冬に逆戻りしたかのような寒い日になった。終日強風が吹き荒れ、寒さがひときわ身に染みる。電話の取り付け作業を終わって、ちょっとばかり事務所らしくとおもったが、立ち上りが遅かったぶんだけごちゃごちゃしている。

春の陽気の日に 2006 / 03 / 28 (火)

「私は公明党を支持します」神主の自宅の玄関を開けると真正面にポスターが張ってあった。神主といえども一個人としてという意味なのだろう。

今日は春の陽気のいい天気。後援会の事務所開きだった。で、神事を行っている最中に後方から「あいーこの神主、悦子と公明党、どっちの合格を祈願してらったべ?」と、囁きあっている声が聞こえる。

神事が終わって、神物を届けに行った者同士が無言で顔を見合わせて帰ってきた。

マサさん「○さん神主だべ 玄関の公明党のピラを見だあ?」

みやさん「神も仏もねえ世のながだ。んだども、こうやって拝ばねばなんねな」

キミさん「神頼みっていうのもあやしもんでねべが」

しのさん「あいあい、神主が創価学会の公明党指示する世の中だでば。油断さいねで」

「ちーとも大丈夫だとは思ってねえ 29番目になりてくねえから今日28日の事務所開きになったんだてば!」と、留守を頼んで午後から第1回能代産業廃棄物処理センター安全協議会に出席した。

これから大切なのは人の「和と輪」 2006 / 03 / 27 (月)

朝から雲ひとつない青空が広がっている。

16年1月1日に美郷町から始まった県内の「平成の大合併」は、今日、八森町と峰浜村が一緒になって八峰町が誕生し幕締めした。

新市町の名称、合併の枠組みなどをめぐってすったもんだするにはした。合併協議がこじれて住民同士が敵と味方に分かれたり

69(9市50町10村)あった県内の市町村の数は25(13市9町3村)に減って、これでひとまず「平成の大合併」にピリオドを打って、スタートを切った。

なんとか特例法にぎりぎりセーフとなったのはいいが、さてどんな地域づくりをするか、進めるのか、問題はこれからだ。

合併効果を最大限に発揮するために欠かせないのは住民の結束力。これから大切なのは人の「和と輪」。新市町の「長」や「議員」の責任は重い。

今朝早く、選挙に出るなら是非手伝わせて欲しいと言ってきた人がいた。ところがその言葉は決して激励するものではなく私を悩ませる言葉を言い残して帰った。

今日もわずかのツテを頼って地道に歩く 2006 / 03 / 26 (日)

わずかでも票の手がかりを得るために後援会に入会していただいて得票の目算をしたほうがきっといいのだろう。と、いつもそう思うのだが、私は後援会入会申込書を持っていない。

産廃問題を抱えたわたしは、地元の住民でさえ敵味方になって選挙をしなければならな

い状況で、影でなら応援できるが候補者の「派」だと思われることさえ避けたいというときに、後援会の申込書にその名前を書き込んでもらうことは出来なかった。

後援会入会申込書に名前を書き込んでもらって後援会組織を磐石に整えることは、選挙に立候補するものとしては必要なものという認識はある程度持っているのだが、「自分の一票は自分で決める」と、高い良識を持った有権者の投票にお願いするしかなかった。

地道に支持を集めてただひたすら歩く。そのため、選挙中にさえ、一度も声がかからない、かからなかったという有権者がいて、後にお叱りを受けることしばしばある。まったくもって申し訳ない。

今日もわずかのツテを頼って地道に歩く。

それでもやるしかないじゃない 2006 / 03 / 25 (土)

4月16日告示の新・能代市長選に立候補を予定している豊沢氏の後援会事務所開きに案内をもらっていたが、自治会役員会の開催準備が忙しく欠席した。

夜、友人から電話がかかってきた。3年前の事務所開きとは打って変わった人達が会場いっぱいにあふれ、来賓に宮腰県議、山木商工会議所会頭、桜庭能代木材産業連合会会長が出席、激励していたという。3年間の実績の賜物であろうか。でも、挨拶した豊沢氏の新市の舵取りを担う決意には話したゆえにがっかりしたという。

「立て板に水が流れる如く、戸板に豆の如くが、新しい市のリーダーでいいかだったら大間違いよ。それでもやるしかないじゃない」と、言って慰めたが。

私は誠意が伝わるなら話したでいい。

君子は其の言の其の行いに過を恥ず 2006 / 03 / 24 (金)

私のポストに入っていた市長選、市議選候補予定者の討議資料を見ている。

会議場を「寝室」にしてきた無呼吸症候群候補予定者でも討議資料だけはご立派だ。

孔子は「本当に優れた人は、自分の行いや実力以上のことを口にすることが恥ずかしく思うものだ」と述べている。しかし、世の中には、「あれも私がやりました」「これも私がやりました」とか、「私にはあれも出来ます」「これも出来ます」というように、オーバーな自己PRに一生懸命な人がいる。自分を飾らなければいけない人は、あるがままの自分に自信がなかったり、どこか後ろめたいところがあるからでもあろうか。と、思ってしまふ。

私の討議資料は、今日、やっと印刷やさんが届けてくれた。日常の生活を正しく、何処から見られても、自分に自信を持って堂々と活動してきたありのままの自分をでしゃばらずに主張している。

久しぶりに「浅内会」に出席した。野呂田芳成衆議院議員から市長選候補予定者斉藤茂宣氏への推薦依頼状が出ていた。「この会には、社会党系から共産党系、公明まで支持者がいろいろいる。自民党の特定者を推薦するのはいかがなものか」という意見もあったが、

なにせ「浅内会」は野呂田芳成後援会化している。当然推薦することになった。
できたてはやほやの私の討議資料は、結局、遠慮して持ち帰った。

雪がとけて水になる？ 今年も巨額な税金が流れる 2006 / 03 / 23 (木)

今年は例年より雪が降る時期も早く大雪となった。多額の除雪費の捻出に追われっぱなしだった自治体が多い。市町村道の除雪費は、国の補助はなくすべて皆さんから徴収した税金（一般財源）である。

国土交通省は特別措置として1月、2月に続いて除雪費の補助として176億円（自治体負担分とあわせた事業費ベースで299億円）を追加措置した。秋田県と全26市町村に19億7300万円。うち能代山本に約1億円の追加配分でもあろうか。

雪が降ってよるこぶのは除雪作業を請け負う土建やサンだけで、毎年億単位の「税金」がどぶ川に流れて消える。

日本中がわいています WBC初代王者 2006 / 03 / 22 (水)

寒い冬からにぎやかな春へ一気に変わったような気がする。いつもならプロ野球のオープン戦があって続いて高校野球の選抜が開幕して、季節も早い春から暖かな春になる。

野球の世界一を決めるワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で、世界の王が率いる日本が「初代世界一」に輝く。

未知の大会、代表を辞退する選手、アメリカ中心の運営や審判が判定を誤る騒ぎなどがあった。しかし、目の前が暗くなるような激戦になっても、決してあきらめずにいれば、最後には勝利をつかめるかもしれないということを、日本チームは身をもって示した。野球も捨てたもんじゃないどころか、迫力十分で心一つになった野球の面白さを再発見した。

次回開催は2009年で、開催国はやっぱりアメリカ中心？ サッカーなど他の競技がオリンピックやワールドカップに精力を注ぐように、WBCを重く位置づけることになるだろうか。五輪復帰を説明する材料になればいいが。

輝くみらいへ 水とみどりの環境のまち 新能代市誕生 2006 / 03 / 21 (火)

春分の日、能代山本地方は朝から青空が広がり、春の日差しが注ぐ穏やかな天気に恵まれた。残雪を抱いた白神山地がその山の背を浮かび上がらせて輝いている。

昨日20日の三種町を皮切りに、今日21日の新・能代市、27日の八峰町と、相次いで合併新市町が誕生する。もともと広域の一体合併を目指していた7市町村は、すでに自立の道を歩んでいる藤里町を合わせると、1市6町1村から1市3町に再編。「平成の合併」はひとまず幕を引く。

能代市 人口約63,000人 面積426.74平方キロメートル

三種町 人口約20,000人 面積248.06平方キロメートル

八峰町 人口約9,000人 面積234.19平方キロメートル。

八峰町は県内の合併市町の中では最も人口が少ない。



青空に映える残雪の白神山地（能代公園から）



新能代市ヘテープカット



新市章を除幕



青空にひろがる新市旗

現・能代市66年の歴史に幕 閉庁式 2006 / 03 / 20 (月)

市役所正面玄関前で、豊沢能代市長ら5役と能代市議会正副議長によって慣れ親しんだえんじ色の市旗が降ろされ、現・能代市66年の歴史を閉じた。

二度の大火災、水害、地震と幾多の災害に遭いながらも発展の道を歩む市民の力は、新能代市となって結集して一つにならなければならない日が来たことを強く感じる。

市長も議員も合併で失職した。新しい市に向けた選挙に出馬表明をしている方々の顔が浮かぶ。「私」を排してどこまで「公」に尽くす決意ができているのか判らない。



閉庁式に並ぶ豊沢市長ら5役と能代市議会正副議長



慣れ親しんだ能代市章

「私」を排して「公」のために尽くした田中正造 2006 / 03 / 19 (日)

春分の日の直前日曜日が自治会の通常総会日にあたる。今日、やっと終わった。自治会が地縁団体として法人化していることもあって、昔のように、「まあまあ」では行かない。時代の流れだろう。広報を配るだけでなく自治会の事務的なことも多く、174 世帯をくくるのは大変な仕事。そんなこんなわけで改選時の年度となってもなかなか役員を引き受けてもらえないのが現状。候補者に名乗り出る住民があって選挙で自治会長を選ぶほど活発な自治会がうらやましいかぎり。

総会が終わって、「私」を排して「公」のために尽くす覚悟を決めて政治の世界を志した明治時代の代議士・田中正造が頭をよぎった。足尾銅山鉱毒問題の解決に命をかけた政治家である。

それに背中を押されたかのようにやっと決意した。討議資料の作成準備に取り掛かった。「選挙に出なければ議員にならなければ、20 年近くも市民が重石を背負ってきた能代産業廃棄物処理センターの処分場問題は片付かない。環境対策の協議は進まない」と心配したためだ。

さあ、大変だ！ 立ち遅れが尾を引くことは知っている。間に合わないかもしれない。

私だけ、何でこんな気分なんだろう 2006 / 03 / 18 (土)

みんなせっせと選挙の準備をしている中で、なぜか私の心はブルーだ。連日続く私への嫌がらせに精神的にかなりまいっている。昨日は我が家になにやら不気味な刺客が現れた。私をおとしめる人たちの掌中に嵌められたくない思いと、「能代のためにももう少しがんばれ」とわたしの背中を押してくれる市民の意識にいまだ迷っている。最終的には私の判断なのだが。

明日には決めなくちゃ！

もしかして刺客だったのかしら？ 2006 / 03 / 17 (金)

去る 3 月 8 日に「自分たちは右翼ではありません」と、身分を証明する名刺を一枚差し出し、「選挙が始まる前に、能代産廃処理センターのことを槍玉にした記事を出したい」そう言って帰った人たちのことをある程度調べておいた。中田満議員が秋田市内で生活していた若かりし頃の時代に、この団体とかかわりがあることを聞いている。

今日また来た。「原稿が出来たので目を通して欲しい」と、A4 サイズの文書を数枚差し出してきた。私はかかわりを持ちたくなかったから毅然と断った。

私がこの文書に削除や加除して検閲することで、この団体の人たちとのかかわりを持たせようとしているのではないだろうか。それが中田議員が私に向けた刺客で私をスケープゴート亡き者にする手口、作戦だとしたら。中田議員ならのやりそうなことだが、背筋が凍った。

PSE 解らないことだらけ 2006 / 03 / 16 (木)

P パツと決めて S 最後は E いい加減
何も昨日に引き続いて豊沢市長のことを言っているのではないんです。

「PSEマークの意味が解りません!」と、経済通産省に文句をつけているところです。
電気用品安全法に基づき安全基準の適合を示す「PSEマーク」がない中古家電が4月から販売できなくなる問題が起きている。

リサイクル店に行ってみると、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、ギターやピアノ、オーディオ機器などが再利用を待って山と積まれている。

安全性はどんな検査機関で何が基準なのか。中古品の扱いに縛りをかけるなら家電リサイクルはどうなるのか。中古家電が「ごみ」になると循環型社会に逆行するのではないだろうか。リサイクルにブレーキをかけたら誰が責任を負うのだろうか?

「PSEマーク」知らなかったから今まで論じることなく、ここ2月ごろから急に浮上してきた。

典型的な役人仕事を披瀝した経済通産省も、批判が集中して迷走している。実施時期が延長になるのか、それとも、もっと議論を深め、業界や消費者に周知徹底を図ってからでも遅くない。

テーブルの下で握手を公にして言っちゃった 2006 / 03 / 15 (水)

♪ 運転手は僕だ、車掌は君だ あとはのとなれ山となれ ♪

あれ?この歌 半年も前に聞いていたよね。

合併後の新市の要職に「市長は豊沢、助役に丸岡二ツ井町長」で、テーブルの下で握手済みであることはかなり前から聞いて知っている。

昨日、実にお粗末な茶番劇があったようだ。

新市の市長選に出馬を表明している豊沢市長は、二ツ井地区から市長選に二人(斎藤氏)と出馬するのは奇異に移ることを不出馬の理由にした丸岡二ツ井町長を伴って記者会見した。

以下昨日の記者会見シーン

豊沢市長「二ツ井プロジェクトを実現するために、新市の市長に当選のあかつきには、不出馬を意向を明らかにしている丸岡二ツ井町長を、新市の重要ポストに就任要請する。」

記者「それは、選挙協力の見返りか、事前約束か」

あからさま言っちゃった豊沢市長、あわてるが否定はしない。

丸岡二ツ井町長「それは、私の思いではない、豊沢氏の考えだ」と、戸惑いを見せるふりをして顔をむっとして横に目をそらす演技。

視聴者 A 「おかしい。何がおかしいかって言えば、新市で否決される可能性がある。」

視聴者 B 「7:3 で負けるので、丸岡氏の協力になった。N 県議の密約で」

視聴者 B 「利用する（立っているもの）のは親でも使えってことわざがある。」

これも豊沢市長の勝利のための計画的発言とは思う。けれど、マイナスに響かないことを祈るのみ。

受験番号ありました！ 2006 / 03 / 14 (火)

この 7 日、「15 の春」に挑戦していた 724 人の結果が出た。ぜひ、なんとか、できれば、どうにかして、まぐれでもいいから、ああ合格したい。「かみさま」「ほとけさま」の緊張から「あった！」「やった！」「受かった！」の歓喜の声に爆発したにちがいない。

早速知人から息子が合格したと弾んだ声の電話をもらった。大規模な認定農家の息子は将来農業を継ぐだろうかと心配していた。大丈夫と安易な気休めの言葉は掛けてやれなかったが、私は「合格おめでとう！」と一緒に、この試練のトンネルをくぐりぬけた後の将来の進路や職業につく夢を忘れてはいけない。と、言葉を贈った。



土を割って春の芽をだす「大甘菜」。別名ベツレヘムの星は 5 月に花咲くユリ科多年草

候補者の政策的論争を聞きたい 2006 / 03 / 13 (月)

今日は、また冬にもどったかのような道路が白一色になる厳しい寒さにもどった。

10 日、市長選に立候補を表明している斉藤滋宣氏が自宅にまでわざわざご挨拶に見えた。昨日はまた（午後 2 時ごろ）、市長選に立候補を表明している斉藤滋宣氏がこの周辺を一軒一軒たずねて歩いているようだ。

私が斉藤滋宣氏と直接会ったのは 3 年前、国への陳情で上京して懇談したとき以来だった。過去の参議院議員選挙では中田満議員も率先して支援をしていたことを思い出したが、今度の市長選はそうはないだろう。

わたしはわたしで、3 年前の今頃「苦戦している、助けてください」そう懇願されて、旗を振って豊沢市長誕生の一翼を担った苦い経験を思い出していた。今、豊沢氏やその陣営は「能代の人が二ツ井町の出身でもないにわか人を、新市の市長に選ぶわけがない」と、誰の力を借りなくとも選挙の勝算はわれにありと得ていると聞く。それは市民の意識のあ

らわれであると、現職強の甘味をじわーと感じ取っているようだ。しかし、私はそのこと事態が豊沢市長のおごりではないかと懸念している。

10日の夜、豊沢氏の決起集会が文化会館小ホールで開かれている。私は、自治会の総会準備で出席できなかったが、応援団を努めた柳谷渉議員の浪花節にうんざりしたという声あり、聞きほれたという声アリ。

候補者が揃ったところで市政に対する政策的論争を聞きたいものだ。



さぶっ！ 雪にすっぽり埋まった水仙

浅内小学校現校舎最後の卒業式 2006 / 03 / 12 (日)

青空が広がった昨日の天気とはちがって、寒い風が時折吹いては雪が降る今日の天気。校舎の移転改築が進んでいる浅内小学校現校舎最後の卒業証書授与式に出席する。男子 15 名、女子 16 名計 31 名が慣れ親しんだ校舎を巣立った。

真新しい制服を着た卒業生に校長から「心身ともに健康で笑顔をわすれず日々がんばって」と激励の言葉がかけられた。

この3月の末に建設工事が完成予定の新しい校舎は、引越し作業が終わって5月の連休明けには供用開始が出来ると市教育委員会からは伺っている。

午後から名古屋国際女子マラソンをテレビで見入る。スタートからずっと先頭を走っていた渋井陽子選手をゴールまで後1キロあまりというところで弘山晴美選手は追い抜いて優勝した。

別れの季節・卒業式に何を歌いますか 2006 / 03 / 11 (土)

男子 39 名、女子 36 名計 75 名の南中学校第 22 回卒業証書授与式に参列する。送辞と答辞の代わりに、卒業生と在校生が部活や学校行事の思い出を振り返りながら呼びかけをして、お互いに感謝と激励の言葉を交わしていた。

合唱でフッと気がつく。卒業式の歌は定番のはずの「蛍の光」や「仰げば尊し」は、ここ、しばらく聞いたことがない。昔と違って、卒業式の歌は生徒たちの好みでその年限りの歌に決まるところが多いようだ。

「旅立ちの日に」「いい日旅立ち」「贈る言葉」など等

一犬虚に吠え万人実を伝う 2006 / 03 / 10 (金)

午後 1 時、能代市議会最後の議会便り編集委員会に出席する。結局信太委員はまたしても欠席した。

能代市議会だよりの「市長答弁」に対する私へのイチャモンは、その後どうしたものやら。問題があったら、きちんと委員会に出席して物を言うべし。

信太氏は自身の持っているホームページや別サイト「能代の掲示板」で、私の名誉、信用を著しく傷つけている。インターネットとは言え、ホームページだとは言え、公人の発言が持つ重みとして、またモラルにおいても不適切な行為であり、まことに遺憾だと私は思う。

「一犬虚に吠え万人実を伝う」ということわざがある。一匹の犬が何かの気配に驚いて吠えたと周りの犬がいっせいに吠え立てて本当に何かが起きたように伝わるという意味だ。

信太氏の確信のない不確実な情報に惑わされる一連のインターネット情報にこの古いことわざを思い出した。

「知りたい」ハンドルネームを自在に使ってあっちこっちの掲示板に、いわれのない悪態でバッシング登場するのは信太氏であることぐらいは皆周知のこと。それが「能代の掲示板」に登場する N (^ A ^) O さんに信太氏本人が実名入りで応答してばれ。

あいまいな部分ほど勝手な推理で埋めていく彼女に、物を申すには馬鹿らしくもありと、まったく相手にしていない人の声も多く聞こえるが、かげで面白おかしく、ニヤニヤして上手く利用している議員や一般の人たちがいるとも聴く。

亀でよい 人に尽くした 者が勝ち 2006 / 03 / 09 (木)

自治会総会のための役員会で、提出案件を話し合う。平成 17 年度の事業報告、決算、財産の保有状況、18 年度の事業予定、予算など。これが自治会だけでなく部落共有林組合から神社氏子会まで同じ日に総会を開くのが恒例。

伝票と数字を睨めっこしながらパソコンの打ちっぱなしがつづいて、とうとう、この 19 日に開かれる総会の準備にしっかりはまってしまいました。

いやいや、総会の準備にはまることで自分の気分というか、迷いというかを紛らしているような気がする。なかなか、選挙の準備に向かう気になれずにいる。

「亀でいいわ、人に尽くしたらきっといいことあるよ」と、独り言で慰めている。

客人・団体の利する目的は？ 2006 / 03 / 08 (水)

能代市議会最後の議会が終了して家に居た。ドアを開けて家に入ってきた二人の男性がいきなり、「今の政治が悪いのは自民党の談合が元の始まりだ。能代市長選もしかり」

と、こう話し始めた。「15年の市長選挙で豊沢氏が使った能代産業廃棄物処理センターの裁判資料がほしい。コピーさせて欲しい」と、言った。

「豊沢市長にも中田議員にも面会をしたが、とくに中田市議会議員には、中田氏が秋田に居る時代から金銭トラブルなどで騙された」と言うので、「古い秋田時代の敵討ちと、それが裁判資料とどういう関係があるの? 」と、逆に私は訊ねた。

「ふたり(豊沢・中田)から裁判資料を含めるセンターに関するすべての資料を持っているのはあなただけと聞いてきた」と言った。

私は「弁護士と相談しなければ勝手に資料を渡すことは出来ません」と言った。二人の客人は「斉藤滋宣氏は野呂田芳成の秘書で 能登氏と深い関係があって、選挙が始まる前に、能代産廃処理センターのことを槍玉にした記事を出したい」そう言った。「自分たちは右翼ではありません」と、身分を証明するからと名刺を一枚差し出して「また、来ます。」そう言って帰った。

客人もしくは所属する団体の目的は、今回の選挙で一体誰をどうしようとしているのだろうか。なにやらかにやら私の頭の回転ではこの人たちの「話」は、つながらない。

「名刺をいただいてもあなたたちを信用できません」と言ったまではよかったが、ただ、怖かった。足がしっかり震えていた。

私のホームページを利用される可能性もある。早速、掲載内容を無断で転用、記載を禁ずることにして表示した。

能代市議会65年の歴史にさようなら 2006/03/07(火)

能代市議会最後の3月定例会は、2月22日から始まって今日7日、14日間の会期を閉じた。能代市議会は、市内6施設の指定管理者の指定議案のうち、老人憩いの家白濤亭、東ディサービスセンター、緑町ディサービスセンター・グループホーム、ふれあいディサービスセンターの4議案は、本会議で文教民生委員会の結論である「継続」が否決されて、原案は賛成少数で否決となった。

6月まではこのまま施設運営の委託を継続することになるが、7月以降は新市の判断となる。しかし、いずれ指定管理者制度は原則として9月から「やらなければならない」運命にある。

議員になって11年中のこの3年間を振り返って、豊沢市長の成就出来なかった「冠」を捨てる市町村合併問題から見た資質に加え、それを取り巻く中田、畠、畠山、信太を含む従明利君議員に萎えて終わった。そして能代市議会65年の歴史にさようならをした。

それにしても 「終わりよければすべて良し」に到らない私の心に悔いが残る。

土の中 みんなせっせと 春じたく 2006/03/06(月)

冬籠りの虫の声を啓く啓蟄。本当に春の暖かさを実感させてくれる日が続いたかと思っ
ていたら今日はまたものすごく冷たい風が吹く。思わず外に目をやると、高く積み込ん

だこの冬の豪雪を利用して造ったかまくらがすっかり雪解けして青空が見えるようになっていた。その足元の土の中から水仙の芽が春のしたくをしている。

午後 1 時 30 分から能代市農業委員会に出席。終わると 3 時、明日開催される 3 月定例議会最後の常任委員会委員長報告のための読み合わせをする。

付託審議した委員会で「継続審査」とした 3 施設の指定管理者の指定議案をどうするか。合併に伴い能代市議会がなくなるその前に臨時議会で決着をとという意見もあったが、私は明日でさよならする能代市議会本会議場で可否の結論を出して決着すべきではないかと言った。「当日決着に可能性がある」と事務方もその調整に難儀していた。



土の中 みんなせっせと 春じたく ああ、自然とは力強いものだ。

一年生が待ち遠しい 2006 / 03 / 05 (日)

絵本からぬいぐるみ人形から何かとコマコマとしたおもちゃまでが所狭しとなっている。

「いらなくなったおもちゃは捨てましょう」というお母さんのイメージは、なかなか孫には伝わらない。一度は「どうかな？」と手にとって迷うところまではいくが、小さな首を傾げておもちゃ箱へしまいこむ。

昨日待ち遠しかった「机」が到着して、大掃除をしながら置き場所をやっと決めた。やっぱり、新しい机の中にお気に入りのおもちゃを移動、ちゃんと納めてわくわく自慢をしていた。

「勉強しよう!」と言って早速新しい机に向かった孫は、お絵かきを楽しんでいた。

「おれもこんなにうれしかったもんだべか」と、親たち。そうだよ。

情がわいても「イエスマン」とならず しかし、気分は憂鬱 2006 / 03 / 04 (土)

議案を否決することに提案者が怒る顔、がんばった市職員の顔を想像しながらも市や社会福祉協議会の手ぬるさに「最後の議会だから」と、情がわいても「イエスマン」になることは出来ない。

しかし、きぶんは憂鬱だ。体調を崩したが、黙ってられない。指定管理者制度の指定

に関する継続部分を7日の議会最終日で可否の結論を出して決着させるよう「あらゆる技術的手法を考えるべきではないか」と、同僚議員に電話をした。

事態が好転することを期待して「継続」とはしたもの 2006 / 03 / 03 (金)

二日にわたって付託議案を審査するのは、そう滅多にあることではないが、昨日から常任委員会の審査は続いた。公募によらない保坂福祉会館は現在の委託先である能代市老人クラブ連合会を指定管理者にすることについては全会一致で可決した。しかし、指定管理者を公募した4福祉施設のうち、老人憩いの家白濁亭は賛成多数で可決したが、東サービスセンター、緑町サービスセンター・グループホーム、ふれあいサービスセンターの3議案は賛成多数で継続審査とする結果となった。

会派の同僚議員からそれなりの理由も書き込まれたメモをもらっていたが、今朝、委員会の審査に入る前「継続審査に」と、急な方向転換の指示？に正直私は困惑していた。

それでも、7日の議会最終日の本会議までに事態が好転することを期待した「継続」指示なのだろうと受け止めたが、合併に伴い3月21日で能代市議会はなくなる後がない議会に白黒の決着をつけるべし私が会派であったはず。「否決」も「継続審査」も議案そのものが廃案となることには違いないが、宙ぶらりんの「引きづり方」がちがう！
そうやって私は「継続審査」指示？してきた同僚議員に迫った。そしたらなんと「某議員の方からそのように（継続）と言われて」と転化論。

福祉に携わる人が安心して働くためには？ 2006 / 03 / 02 (木)

朝早くから相談の電話が鳴る。能代市社会福祉協議会で働く職員の雇用問題がしっかり確立していないという内容だ。

午前10時、常任委員会開催。審査の過程で断続的に資料の提出を当局に求める。公平、公正な立場で採点したであろうから選定委員会の選定結果は尊重する。しかし、「地元企業の育成を」といいながら、なぜ、市長は中央資本の大手を指定管理者に指定するのか。そして経営に甘さがあり、民間との競争力に欠点があり、行政におんぶに抱っここの体質を指摘されて誰から見ても指定管理者として指定されないのはやむを得ないとの結論がありながら一つの施設は指定管理者に指定されている社会福祉協議会。そんなこんな意見は管理者指定の決定権を持つ市長が応募者に上手く施設管理を振り分けられたような臭いがすると指摘する委員もいる。決定の基礎となる点数など情報開示は出来ないという最終的に決定した市長の裁量権に疑問が残る。

「候補者は施設職員全員を雇用するとの意思表示をしている、協定書を結ぶ際、雇用環境について協議する」と、市は指定管理者と職員の間に入って積極的に関与すると説明するものの。それで雇用される側の不安が解消される保障はない。契約期間が切れるたび

にこの問題が繰り返されることは、福祉に携わる人が安心して働くことが出来ない。

指定管理者制度は、民間のノウハウを活用し、サービス向上や管理経費の節約を図ることを目的としている。特に医療、教育、介護・福祉などは営利を目的とした企業感覚で行われていいものかどうか、審議が伯仲すればするほどに矛盾を感じる。

午後 8 時 45 分、質疑を残したまま今日の委員会はいったん閉じた。

ストレスが「うつ」になるって本当だ 2006 / 03 / 01 (水)

昨日 28 日、私は体調を崩して緊急外来のお世話になった。奇しくも広域消防 4 署体制ではじまる最後の日に救急車に乗ってしまった。今日、再診察を受けるため待合室にいると市役所元幹部と偶然に会う。「能代市役所は一体どうなってるのかね?」

「かれこれしかじか ああなってこうなって」と昨日、救急車で運ばれてしまったことまでを話すと、宮腰市長時代のあの激論にも倒れなかった人が、何で自分が選んだ市長の前で倒れるのか!と、冗談にからかわれた。

今は亡き元市長宮腰氏の応援団長の一人だった柳谷議員が、今は選挙の対抗馬だった豊沢市長とその仲間中田議員のグループだと知って驚いていた。が、それも時代の流れ。

「がんばってくれ!」と、発破をかけられて一足先に診察室に入った。検査の結果は異常なし。めまいと吐き気と激しい動悸は一時的にものすごいストレスで金縛りに遭ったのが原因だった。ストレスが「うつ」になるって本当だ。

午後から本会議に出席した。午前中いっぱい、指定管理者制度導入に伴う候補者選定議案の付託審議に時間を割いたようだった。明日、文教民生委員会で審議する。



ホームページ見なきゃよかったのに 2006/02/28 (火)

昨日の一般質問で、信太議員は議員バッジをつけていなかった。議運の委員長は「議員バッジは要るのか要らないのか」で議会事務局等とも相談していた。バッジをつけなければならないという法的拘束力もないが、能代市議会先例集等を参考にして、議員は本会議場に入る際にバッジ着用を義務付けられている。結局、信太議員はバッジを事務局から借りて着用した。そして畠山一男会派代表を伴って「わたしは着たきりすずめでないから洋

服をひっかえとつかえしているうちに、バッジを忘れてきた。ゴメンナチャイ。」と議長に謝りの挨拶をした。

私は傍で聞いていて、なんか一言多いな。えへら笑った態度で何処向いて誰に謝ってるんだろう？ 足先とからだを反る方向がちがう「イナバウアー」を思い出した。

それで今朝、何となく信太氏のホームページを見てしまった。案の定、議員バッジを着用しなかったことで懲罰にかけるために動く議員がいたと事実でないことを書き込んでいた。いつもの「イナバウアー真似して魔女の一撃を」と、まるで人をくって馬鹿にした内容が掲載されていた。「一般の人が知らないこんな議員がいるんだ」かすかに私の頭をよぎった途端、今までの怒りが心頭に発したかのようにめまいがした。

わたしは能代市議会議員として最後の一般質問が終わって「イナバウアー真似した魔女の一撃を」くらって倒れてしまった。

肩を並べようと片意地を張る 2006/02/27 (月)

登山で言うなら途中まで楽しんで頂上をめざす人が、今急に、登山道入り口からしっかり登りつめようとする所に肩を並べようとしてもそれは所詮無理だって。

「私、能代産業廃棄物処理センターの問題を追及してます!」って、世間向けポーズだけになってしまう。

こういうの「森を見て木を見ない」というのかな。中身がわかっていない質問者が、これまた本質が分からない答弁者に毎度同じ質問をつづける。しまいには、能代市が墓穴を掘ることになりかねない。

市長の今日の答弁を聞いている限り、市政一般にわたる政策的なことも勉強していないね。再質問に「ほかの事を考えていたから」と、ちんぷんかんぷんな答え。そのつど、暫時休憩!をかけて答弁を準備するために職員を振り向いて助けを乞う。

本会議中、突然けたたましく携帯電話が鳴ったかと思うと、同じ方向に倒れてぐったりお休みしているななめ後ろに座る二人のいつもの議員。ガストープで議場内の温度が上昇しているもんね。

明日は私が一般質問。思いやられるなあと、少し憂鬱なきぶん。

そうそう！ あるある！ 2006/02/26 (日)

「明確な裏づけがないまま、質問を続けたことをお詫びしたい」と、今日 26 日の民主党前原誠司代表ら執行部。

「時価株」を上げるために嘘の情報を流す「風説の流布」、相手を陥れようと本物である証拠を出せない「ガセネタ」、これらの情報提供で「粉飾」に着膨れする。

事実に基づかないガセネタを流すことによって世間の評価の「受け」を狙う卑劣なやり

方をする人は、所かまわずいる。

そうそう！あるある！ 風説の流布・ガセネタ・粉飾 3 点セット。男女を問わず東京に負けず劣らず能代にも。

明日から能代市議会一般質問が始まる。いつしかの議会で自ら「私はライター」と名乗った「知りたい」人が市長を質す。

和がまた輪になって 2006/02/25（土）

私自身の「忙しい仕事」は、地元の頑張るご婦人たちにとってはどうってことがないらしい。「あれえ、忙しい仕事の一環としてこっちのほうもなんとかならないけ？」と、憎めない言い回しについつい仕事を引き受けてしまう。

山本町の古くから伝わる歌舞伎の郷土芸能を保存しようと、今、その関係者は舞台の修復工事をやっている。私はそこに垂れ下がる昭和 27 年代もの「幕」のレプリカ（復古）を、地元のがんばるご婦人たちから依頼されていた。

変色ばかりかしっかり朽ちた幕布を、どう再生できるだろうか。引き受けるにはかなり思い悩んだが、色落ちして分からなくなってしまった義経千本桜を模したような図案を、手探りでトレースする作業から始める。

一人、ふたり、声を掛け合うと針箱を持って集まる。ふるさと文化館にかかった緞帳を手作りした「がんばる」の和がまた輪になって針と糸を楽しむ。

日本を代表して金メダル ありがとう 2006/02/24（金）

メダルがなかなか取れないトリノ冬季オリンピックの今朝、ちょっと不安におそろおそろという感じでテレビをつけた。フィギュアスケート女子の表彰式で青のコスチュームに身を包んだ荒川静香さんが金メダルを獲得し、笑顔を見せるシーンが入っていた。優雅で伸びやかな演技に感動した！ おめでとう。そして、ありがとう。

選曲「トウランドット」は、分からないんだけど、もしかして開会式に歌っていたイタリア歌劇の曲？

村主選手もよくがんばった。安藤選手「駄目なところ」から、また、がんばればいい。

午後 1 時 30 分、来月 6 日に開催する任期中最後の能代市農業委員会開催準備の現地調査に同行する。

午後 3 時 30 分山本町へ、夜は自治会の打ち合わせと忙しく働く。日本中が金メダルに興奮している。

あぁ、やはり議員の口利きが隠れてしまった 2006/02/23（木）

耐震強度偽装問題で衆議院政治倫理審査会が開催され、伊藤公介元国土交通省長官が建築主のヒューザー社長とともに国交省を尋ねた理由などを追求して民主党の長妻明議員は頑張った。が、メール問題が永田議員の議員辞職かの進退問題に発展したおかげで、国会が真相の解明に当たるべき当然の疑惑は隠れてしまった。

加えてぶつかってきたのがライブドア粉飾決算だ。なんもかも自民党・小泉首相に上手くかわされてしまった感じ。



秋田魁新報の夕刊を開いて、掲載されている漫画に思わず笑ってしまった。

確かに市長のボールは、豊沢氏が握っている。

ただ、バスケット競技は走り回ってシュートする直前にボールが奪還されてしまうこともある。ここは豊沢さんの好きなゴルフの漫画にして欲しかったなあ。「ホールインワン」って。

ちょっと漫画を拝借してゴメンナサイ！

(2006/02/23 秋田魁新報夕刊から)

あやや！自爆寸前？ 2006/02/22（水）

遅い時間の夜のテレビニュースを見ている。

マンションの耐震強度を偽装した問題、ライブドアの証券取引法違反問題、アメリカからの輸入肉危険部位混入問題、防衛施設庁発注の官製談合事件問題を4点セットに政府与党・小泉首相を攻めるはずの民主党は、逆にメール問題の真偽が問われて立場が逆転してしまった。

永田寿康議員が昨年夏に行われた総選挙の直前に、当時のライブドア社長堀井貴文氏が3千万円を自民党幹事長の息子に振り込むよう指示した社内メールがあると爆弾発言したときは、本物なら小泉政権にはとてつもない打撃になるところだった。

ところが、ど素人の私から見ても民主党が公開したメールは、「おかしい」と思う。パソコンの画面を見ただけではメールの差出人は特定できないことくらい分かっていたのだろうか。テレビ討論会を見ていると同じ堀江メールを平沢勝栄自民党議員も持っているという。

堀江メールを剣のように翳した議員本人の姿が行方不明のなかで今日の党首討論を聞く限り、「証拠」を出せない民主党の方が自爆寸前モードに入ったような気がする。

あやや、今度はライブドア本体の粉飾決算で元社長堀井貴文氏が再逮捕になってますます世の中は混乱してにぎやかになった。

明日衆議院では、伊藤公介元国土交通省長官が耐震偽装問題で建築主のヒューザー社長とともに国交省職員と会っていたとする政治倫理審査会が公開で開催されるというのに。

「有終の美」はまだ早いのですが 2006/02/22（水）

豊沢市長にとって最後となる平成 18 年能代市議会定例会（3 月）が開幕した。冒頭的主旨説明の中で、市長は「二ツ井町との合併協定項目に基づく協議や報告事項がすべて終了した。3 月 21 日には、新『能代市』発足という歴史的な節目を迎える。さらなる協働のまちづくりを進め、新市が着実に発展していくことを願う」と述べた。

また、現・能代市議会としても最後の定例会議。承認 2 件、単行議案 10 件、補正予算 12 件が提出された。市長も議員も「有終の美」はまだ早い、有終の美を飾ろうと臨んでいるとしても不思議ではない。

今回の議会を単なる「引き継ぎ」に終わらせないよう、この 3 年間の影の部分にもしっかり眼を向けて議論すべきことこそ、豊沢市長時代最後となる議会に求められている大事な使命だと思う。

インターネットホームページによる選挙運動 2006/02/21（火）

とりあえず資料だけでもと市長選挙、議員一般選挙立候補届出等説明会に出向く。町議ではゼロだった供託金が、市の選挙の場合は市長が 100 万円、市議 30 万円。一定数以上の得票がない場合、供託金が没収される。

隣に座っていた二ツ井町の H 氏は、二ツ井町から説明会に参加している立候補予定者を数えて「15 人かあ、まとまらんとやばいなあ」と、帰った。

インターネットホームページによる選挙運動について次のように記載されていた。現在の公選法では違反。

しかし、一般的に、選挙運動にわたらない限り政治活動は自由であり、告示前から開設してある純粋に政治活動のページ（選挙運動にわたらないもの）であれば、そのまま開設しておくことが出来る。

しかし、立候補者の「氏名」等を表示したページの場合、選挙運動期間中の書き換え・更新などを行うことで実質的に選挙運動に影響を及ぼす場合、公選法違反となる可能性もあることから、選挙期間中の書き換え・更新停止（掲示板システムでは、書込み禁止）の措置をとっていただいている。

これは社会福祉協議会の体質の問題 2006/02/20 (月)

昨日19日のことです。能代市社会福祉協議会「67人に解雇を予告」。地元紙トップ記事に眼がとまって、これは と思っていた。寝不足で体調を崩して困り果てているところへ電話やらFAXが続いた。

「解雇されると、仕事を続けないと子どもの学資・教育費に困る」という悲痛な相談内容だった。

指定管理者制度は、公の施設の管理主体をそれまで公的な諸団体に限定されていたものを、民間企業やNPOなどまで広げることにより、住民サービスの向上と経費の節約を図ることを目的に昨年の9月議会で議決している。

どのような手続きで、誰を指定するかがポイントであったが、自治体と管理委託者の関係で委託—受託という法律と条例に基づく契約関係であった制度の見直しをすることによって、これまで一手に委託—受託の関係にもたれかかっていた能代市社会福祉協議会も「法人その他の団体」と位置づけられることは覚悟しなければならなかったのだ。

介護保険制度が始まったとき、いや、能代市社会福祉協議会が「法人その他の団体」として能代ふれあいプラザに入居する段階で、このもたれあいのままでいいのかと私たちは今回の事態を懸念した指摘をしてきた。

指定管理者制度の落とし穴というより、管理者に指定されなければ仕事が減る。当然職員の解雇にまでなってしまう。そう、ならないように、その努力が足りなかった能代市社会福祉協議会の体質に責任がある。

解雇という津波の影響をもろにかぶったそこで働く人たちを救済しなければならない。

不確かな情報で人に迷惑をかけないで 2006/02/20 (月)

朝から電話が鳴りっぱなしになる。「あなたは新市の市長候補者に名乗りを上げた斎藤滋宣氏と隠密懇談して、何を全面支援を約束したのか、それじゃ能代産廃はどういう話をつけたのか。能登チルドレンとなって金をもらったというのは本当か」という、内容だ。仕事場のパソコンで信太氏のホームページを開いて驚いた。

私と薩摩議員は信太氏がホームページで書き込むような斎藤滋宣氏との面談、面識は一切ない。ましてや隠密な懇談し、全面支援の約束などまったく身に覚えのないこと。

いわゆる今テレビでメール問題の真偽が問われていると同じ「ガセネタです」と、答えた。

いつ、なん時、何処で、私と薩摩議員が斎藤滋宣氏と隠密な懇談をしたのか、何を全面支援の約束をしたのか。自身のホームページに記述するその根拠を示して欲しい。

君のニュースソースとなっているところ分らないが、不確かな情報を流して私を陥れようとするその魂胆は、最近、ますますエスカレートして私の議員生命を脅かす行為に匹敵する。こんな迷惑至極な話はない。

2006年2月19日 日曜日

市長選立候補決意 斉藤滋宣氏の悲壮？それとも演技？

今日、前参議院議員斉藤滋宣氏が、新能代市の市長選への立候補を宣言した。その際、斉藤氏はウルウルと声を震わせ涙声となった。斉藤氏の妻は、夫の決意に涙を流して支持を訴えた。それは悲壮感からなのか、あらかじめ計算した演技なのか。選挙戦とは何でもあり、である。斉藤氏の立候補宣言イコール勝利宣言ととらえている自民党は、衣の下に鎧を隠し、悲壮感あふれる場面を設定する。さすが、選挙上手である。

政和会の大倉富士男・薩摩博・伊藤洋文・原田悦子氏の4議員の全面的支援を得ることもできたようだ。政和会はとっくのむかしに自民党の軍門にくんだり、毒キノコを食べていたが、これで毒マンジュウも皿もろともにたらふく食べたといえる。

それに先立ち、斉藤氏は能代市内で昼食をとりながら、先に、斉藤氏擁立で動いた後藤健・塚本民雄・斉藤宗一郎・熊谷健・矢田部昌・武田正広・竹内宏・松谷福三・大倉富士男氏の9名の自民党系・保守派議員プラス政和会の伊藤洋文議員の合計10名の議員や有志等と懇談した。また、斉藤氏は昼食懇談後、政和会の薩摩博・原田悦子議員を交え能代市内で隠密で懇談し、政和会の4議員の全面的支援を取り付けたようである。

信太和子議会便りから

珍しく一步も外に出ない休養日 2006/02/19 (日)

昨夜の知人とその方の奥さんたちの言葉が思い出されて一晩ねむれなかった。

頭がパンクしてこうなっても、産廃は今も気にかけて、どうしたかと涙を流している。夫は病院にいくのも我慢して能代産廃に取り組んだ。それが原因で土地改良区の理事長を失い、自治会長、行政協力員を長年やっても何の労のねぎらい（表彰制度があったようだ）もなかった。これも今まで宮腰市長（当時）とは親戚の関係にありながら豊沢氏一辺倒の選挙結果だ。と言った。私もそれは十分、分かっている。

豊沢氏一辺倒の選挙であなたの市議選挙もみんなが苦労しているのわがっぺ？ 今度の選挙であなたを落とせない。と言った。そのことについても人に言えない涙を流したみんなの気苦労も十分、分かっている。

コンタなうわさばかり流されてなさけねえ、市長選に色をつけないで はじめてオメえだけの選挙に本腰入れてがんばるべ！

一晩の寝不足で体調を崩してしまった。肩は張り、目が痛く、頭が重い。珍しく一步も外に出ない家でからだを休める一日となる。

テレビニュースを待つ。斎藤滋宣氏は新市の市長選に立候補の表明をしたのだろうか。珍しく誰からも連絡がない。明朝の報道記事を待つことにして今日は休もうか。

話あっからすぐ家さコイ 2006/02/18 (土)

「今度の市長選挙は白紙だわ」と、いまからそんなことをいう声を聞くには耐えられない。

夕方 5 時近くから 2 時間、豊沢氏を応援する知人と懇談する。豊沢氏のこの 3 年間を振り返って、豊沢氏にやや背を向けてしまっている心情を話す私に、「自分も同じ思いだからあなたに後ろから矢を撃つ気になれない」と言われた。が、豊沢氏には合併する二ツ井町にも親の代の根っこがあると豊沢氏は此度の選挙に負けるはずがないと、勝利を確信している様子だった。何か胸につっかかっていた「もやもや」が消えて、ほっとした。

夜 7 時 30 分、大切なもう一人の知人から電話がはいる。

新市の市長選について候補者を含めさまざまな情報があふれているようだった。中には、明らかに噂話を流して私の議員生命を絶つために利用しているガセネタ情報もある。

「まんず、今からでもええがら 話あっからすぐ家さコイ!」

一人集まり、ふたり集まり、三人集まり。あれやこれや話し合った。

「産廃はまだ終わっていねえし、TさんとMさんの言うとおり、おめえが動くと大変なことになるでねえのか?」

午前 2 時 30 分。家に帰って今こうして「考えながら」ワープロ打っている。

市民の共通財産として有効利用を 2006/02/17 (金)

平成 16 年度から歴史的価値などの調査を行ってきた市役所第一庁舎・議会議事堂について、秋田公立美術工芸短期大学教授の調査報告会に参加。

大火後の昭和 25 年 5 月竣工の市役所第一庁舎の設計は、耐震構造学の権威といわれた当時の東大教授武藤清氏となっている。さらに議事堂は「木造二階建て」には見えない威厳のある建物であるという。

市役所第一庁舎・議会議事堂は「格段に優れた文化的価値がある」と、今後、市民の共通財産で復古財産として残し、国の登録有形文化財などに指定してもらうなど有効な活用をしたほうがいいとその評価を述べた。

建て増した庁舎にはその昔の名残もあった。うどんを食べた食堂の位置、二階の和室を使った青年会の研修、歌謡ショー、プロレスが盛んだった体育館などを懐かしく思い出した。

木材住宅はCO2の缶詰? 2006/02/16 (木)

今日、午後 3 時 30 分から能代市・能代木材産業連合会主催の秋田県立大学木材高度加工研究所並びに、(財)秋田県木材加工推進機構と地元木材関連業界との交流会があり出席した。交流会を通じて本市の木材産業の振興を図ることを目的として平成 8 年から毎年

開催している。出席者は市職員など含めて 40 名くらい。議員は顔出しを含めて 4 人。

講演者は木工研の仕事とは木材で造った住宅の推進であり、「能代の木材・住宅・街並み 木材住宅はCO₂の缶詰」と述べた。我が家は自前の山の木を伐採して造った安上がり木材住宅である。木材住宅の何処がどうしてCO₂の缶詰なのか、地球温暖化対策のためのCO₂削減は木材住宅に必要なのか、必要ならその方法はどうか、もう少し、詳しく聞きたかった。

差別用語 2006/02/15 (水)

ビジネスホテル東横インが、障害者用客室や駐車場設備を撤去して、不正改造のまま開業していることが発覚したその後の記者会見で小川社長はこう言った。「年に一、二度しか使わない施設は、一般の人には使い勝手が悪いから、障害者用客室・駐車場等はない方が素敵」と。

当然、身体障害者の人権を軽視したもので許しがたいとの抗議を受けた。間もなく開いた記者会見で今度は「自分が上等な人間だと思っていたことが悔しい」とうなだれて、涙を拭いて、自らの言動を謝罪した。

能代の掲示板に登場するN(^ A ^) Oさんは、塾経営で生計を立てている教育者とみている。一時期でしたが、わたしも何人かの生徒の親御さんに「ここなら先生がしっかりしていていいとこよ。子どもを安心して任せられる」と紹介したこともある。

その教育者が名指しで私を「肉体的欠陥」と批判している。障がい者が憤慨するまでもなく差別用語を平気で使われるのは誰でも不愉快だ。「肉体的欠陥にせよ、国語力の不足にせよ」と私を批判するより前に、もっと言葉に気をつけた教育者であって欲しい。

これでライブドアの本業が分かりましたネ 2006/02/14 (火)

13 日、ライブドア事件は全面否認を続ける堀江容疑者を含め 4 人が起訴されてしまった。ライブドア本体の粉飾決算で再逮捕へと進むようだ。

主な株取引と資金還流の仕組みから企業の合併・買収を繰り返してきたライブドア。IT関連企業とばかり思っていたライブドアの高成長を支えたのは、実は利益の追求と資金集めに走るマネーゲームの投資で、本業であるIT事業ではなかった。それなのに、単なるバブルの手品師はIT企業の旗手ともてはやされていたんだ。

結局、ホリエモンはお金で何が買えたのだろう？ 「人の心はお金で買える」その哲学は、これでしっかり破綻した。

一方、会頭選挙に発展していた能代商工会議所の人事問題は、前会頭VS元会頭の何やら聞いたこともないような選挙にまで発展していた。木産連や商工会から推された山木元会頭が、能代商工会議所会頭に就任する結果となった。

地元紙・北羽新報に能代商工会議所の人事問題から会頭選挙にいたるまでの連載があったが、私の頭の中は読めば読むほど「こんがらがって」しまっていた。なかなか複雑に絡まった糸はほぐれるに困難極めそう。新市の市長選に影響しなければいいが。

欠席委員の、お間違いではございませんか 2006/02/14（火）

一昨日の日曜日、私のホームページに対するご質問がございました。

市民に配布される「能代市議会便り」の掲載内容は、議会便り編集委員会で協議、確認済みの上で掲載しています。当然、先般配布になった「能代市議会便り」の中で市長答弁空白欄についても同様事項であり、委員長の特権、職員との談合で掲載できるものではありません。

委員会を途中退席したり、欠席していた信太委員は市長答弁空白欄の経緯について知らないのではないのでしょうか。欠席委員は、出席委員に一任したものとして扱うのもこれまでと同様です。

次にご質問の信太委員の議会便り編集委員会出欠の状況ですが、まず、「能代市議会便り」は臨時議会を除く年四回の定例議会開催ごとに発行していますので、一回の定例会議に四回の議会便り編集委員会を開催します。私が議会便り編集委員になったのは平成 17 年 6 月定例議会からですので、信太委員の出席状況は 6 月定例議会開催中に一回、9 月定例議会開催中に一回、議会終了後の委員会開催に途中退席一回、12 月定例議会開催中に一回、議会終了後の委員会開催に途中退席を含めて二回、と記憶しています。

なお、信太委員は平成 15 年 6 月から平成 17 年 3 月まで議会便り編集委員会委員となっていますが、出席状況はあまり と、当時の委員から伺っていますが、私からは控えさせていただきます。

三つ目のご質問の「答弁漏れ」という言葉の表現についてですが、私は、いや多くの議員は「～について答弁がなかった!」と、本会議場で一刀両断な言い方はしません。「私の聞き漏らしがあったかも知れませんが、～について答弁漏れがあったように思います。もう一度御答弁をお願いします」と、こう、言います。静粛な議場のなかで答弁する者、答弁を準備した者への思いやりの言葉であると、私はそう心がけております。

2006/01/18（水）のこのコーナーに記述した「答弁漏れ」とは、そういうことでご理解をいただきたいと、おもいます。

四つ目のご質問は議事録に市長答弁があったと記載されているということですが、12 月定例議会会議録は今日現在まだ出来ておりません。2 月 15 日には完成品として議員に渡ってきます。また図書館、市民情報公開室などに備え付けられると思います。ただし、一般質問に対する市長答弁書は質問者である私はいただいております。

また、ご遠慮なくお電話くださいますよう、お待ちしております。

MOTTAINAI 2006/02/13 (月)

NHKお昼にニュースの内容は聞きそびれてよく分からなかったが、アフリカの女性として始めてノーベル平和賞を受賞したケニア環境副大臣のワンガリ・マータイさんが小池環境大臣とともにテレビに映っていた。

昨年2月16日に、京都議定書の発効記念行事でたった15分のスピーチに、しばしば口にした日本語は、日本では、もはや死語同然になっている「もったいない」だった。

ごみの削減、再使用、再生利用といった運動を進めていく上でこれ以上の言葉はない。「是非、世界に広げたい」と、うれしいことを言ってくれた女性である。

「もったいない」は食べることに限らない。電気をつけっぱなしにしたり、衣服を粗末にしたり、車のエンジンをかけっぱなしにしたり、時間を浪費したり 暮らしのさまざまなところに無駄を戒めた言葉である。

「もったいねえ、もったいねえ」が、わたしの常々の口癖になっている。その「もったいない」が、世界の合言葉になって地球環境の大切さを訴える。なんとすばらしい響きのある言葉だろう。旗振り役であるワンガリ・マータイさんに、感謝したい。



「布がもったいない」私のパッチワーク・キルトの原点である。

「テーマが大きく戸惑った」 2006/02/12 (日)

「地域資源をどう、活かすか！」能代市は、環境、経済対策の一環として、循環型社会形成市民フォーラムを開催した。今年度最後のフォーラムということもあって、その成果の講演、パネルディスカッションを聴きに行った。

「テーマが大きく戸惑った」と、能代市循環型社会形成市民懇談会委員が言った。正直な発言だと思った。

能代市循環型社会形成市民懇談会は、山形レインボープラン推進協議会、リサイクルポート、大館のコンポストセンターなどを視察した結果、生ごみの堆肥化に取り組むことにしたという。なら、廃食の回収はどうするのか、需要はどうか、保管施設の維持管理はど

うあるべきか。課題が残っている。

「逆の立ち上げ順序が、能代の資源循環型社会形成をさらに遅らせるのではないだろう
か」と、懸念した某推進職員の言葉の裏に、能代は基本に立ち返って、商工港湾課が産業
育成のために立ち上げた資源循環型社会形成を、担当セクションも含めて「ごみの循環を
能代はどうするのか」から、始めなければならないのではないか。と、感じて帰ってきた。

「イマジン ピース」 2006/02/11（土）

本を乱読して気がついたら朝の4時になっていた。

いよいよ、雪と氷の祭典、イタリア・トリノ冬季五輪が開幕してにぎやかになった。いつ
もの「ごった煮」のアトラクションを想像していたが、いやいやもう計算し尽くされたイ
タリアンカラーに感動してテレビを見ている。

故ジョン・レノンの妻オノ・ヨーコさんが突如あらわれて開会式の壇上で語りかけた「イ
マジン ピース」が、印象に残る。英語は分からないがスポーツを通して全世界に平和を
呼びかけていることが伝わってくる。

「汗を流して働く人」かどうか 2006/02/10（金）

危険な山を登るが如くの「佐藤敬夫党」一途の思いが、自民党に復党してからそのザイル
も切れてしまった。

自民党でなければ政（まつりごと）にかかわる人ならず。そんな自民党は昔も今も平和
の構築への友としてはあり得ない。

さりとて「組み」の社会党（現在は社民党）にも。民主党にも今一、乗れない。

それでは、共産党は？と、いうと。

いよいよ、元参議院議員斉藤滋宣氏に新市の市長選に出馬要請が出た。

昨日は一つの若い青年団体が出馬要請し、今日はそれに間をおかずに能代市議会議員有志
からの出馬要請となった。

選挙になることはいいことだ。私は自分の選挙のこともまだ支持者との話し合いが十分
出来ていない状況下で、新市の市長選の相談は出来ない。

個人的には能代産廃問題をぶら下げて何度も秋田県、秋田県議会に陳情を繰り返した経
験から、県議会議員時代の斉藤滋宣氏を知っているつもりだ。当時の秋田県議会きっての
論客である。

私が嫌いな野呂田芳成氏の秘蔵っ子であることと、自民党员であることと、万が一当選
したことを考えるとき、その年齢の若さから長期政権の予想を危惧することなどがある。

しかし、この選挙に誰が出て来ようと、本当に能代の舵取りになってくれる人は誰なの
か、既に立候補の表明をしている豊沢氏に少なくとも3回は一票を投じてきた責任を含め

それぞれ候補者の、いい面、マイナス面を検証した上で決めたい。時には「背に腹は変えられない」ことにも直面するだろうが、政をつかさどる者の評価の重基点を、「汗を流して働く人」にしている私の信念は変わらない。

除排雪は出来るだけ自己責任で頑張りましょう！ 2006/02/09（木）

積み込まれた雪に道路幅は狭くなるばかりか、モーグルの競技場を思わせるようなデコンボコンの雪だまりの道路から一掃排雪をしていただく某町内 7 日の出来事。

ダンプやローダーが着くなり某病院内敷地から駐車場から看護婦さん総出で道路の真ん中に雪を積み上げてしまった。周りの住民もそれを見て「そいだば、おらあのところ」と言い出した。オペレーターが困って、「おらあが役所に頼まれたのは、今まで積もった道路わきにある雪だけだあ!」と、一生懸命になって叫んでいた。

今朝の地元紙・北羽新報に能代山本 8 市町村で除雪費が 1 月末現在で 5 億円を超したとある。このうち能代市は 2 億 7300 万円は重機借り上げ料。外に燃料費、賃金などを合わせると年度末には能代市だけで 5 億円までになってしまうのではないだろうか。

降雪もここ数日小康状態が続いているが、まだ 2 月、予断はできない。役所は市道、生活道路の除排雪や一人暮らし高齢者など弱者への支援などに追われている。悲鳴をあげながらも自己責任でもって除排雪を頑張っている事業所や住民がたくさんいる。某病院のように自分のところだけ、税でぴっぴっぴにすることだけは避けてもらいたい。そうそう、ごみも事業系一般廃棄物で処理しなくちゃね。

スポーツ 06 年・新時代の選手の語学 2006/02/08（水）

今年は 4 年に一度の国際スポーツ大会が集中している。間もなくはじまるイタリア・トリノ冬季五輪、6 月のサッカードイツ杯、プロゴルフなど等の晴れの舞台に向けて、選手たちの努力が続く。

いつの頃だったか忘れてしまったが、プロゴルファーの青木功氏がマスターズゴルフ大会で優勝（間違っていたらゴメンナサイ）したその祝賀会で、土光経団連会長がこう言った。「青木が世界に向けて強いゴルフが出来るようになったのは奥さんの力だ。周囲となんの気後れなく英語でコミュニケーションが出来るようになったからだ」と。

この言葉の持つ意味をいまでも私の記憶の中に忘れていない。

ゴルフの宮里藍選手が英語で記者会見を受ける。サッカーの中田英寿選手のイタリア語、英語はしっかりしたプロの意識で受け答えする。そうそう、卓球の福原愛選手も中国語を自在に話して大活躍をしている。

これからのスポーツは、技もそうだが国境を越えた言葉をきちんと持っているそんな新しい時代になったのだと気がつく。

一秒 1000 万、一分一億の借金 2006/02/07 (火)

昨日のテレビ・ニュースステーションで、司会者と谷垣経済担当相の対談形式での「国と地方の借金について」聞いていた。消費税引き上げはいつ、何%か。この秋の自民党総裁選を控えた発言に終わったが、「国と地方の借金」は、2月6日22時42分現在、768兆6689億7007千円、一秒1000万円、一分一億円にカウントが上昇する。

トリノ冬季五輪が間もなく始まる。

冬季五輪史上最多となる80～85カ国・地域から選手、役員を迎え入れるイタリア・トリノは、ここでも五輪関連の財政難が浮上しているという。不足分は約89億円とも言われ、一部ではその2倍とも指摘されている。イタリア政府が一部支援を決定しているというものの不足分についてトリノ市は、五輪施設を担保にして借金をする策なども検討しているというのだ。

こうした大きな大会の何かをやると借金だけは膨らんだまま残る事が、開催国の頭を悩ましている。

財政問題は大会の質に影響しない、すばらしい大会を開催して欲しい。

政治の責任の重みを競い合う人は 2006/02/06 (月)

新町・八峰町には芹田氏、加藤氏が名乗りを上げた。新町・三種町には佐藤氏、工藤氏がそれぞれ名乗りをあげて地域の振興発展にわたしが私かと、政治の責任の重みを競うことになったのはいいことだ。

豊沢氏が新市の市長選に出馬表明してから2ヶ月になる。

出る予定にないものがこんなことを言うのもなんだが、果て、どうしたのだろう。いまだ、誰も手を上げてこない。水面下で取りざたされている人たちが、手を挙げる機会を伺っているのだろうとは思うが、それにしても。

いま、一人でひと昔前のことを思い出して苦笑いしている。「原田さん 君! 市長選に出るっても、三役人事を考えているんだろう? 名前をあげてくれ! 何? ないの」

強い現職にどうせ落ちる戦いに挑む私は、産廃問題を抱える原告と被告の全国に例のない選挙は臨んだが、当選後の三役人事など考えてもいなかった。引き摺り下ろされるが如く私は市長選を断念したあの苦い経験を思い出している。

生活のすべてが天候次第 2006/02/05 (日)

それにしても、暖冬の予報に安堵していた心が見透かされたかのような今年の天気は実によく外れた。昨年秋の発表ではこの冬の長期予報は暖冬だったと記憶している。

長期予報が外れるのは珍しいことでもないが、観測史上稀な厳しい冬になった。冬が稼ぎ時の観光地や漁業関係者などは息をのむような気持ちで天気予報を見ているだろう。

農家は雪でハウスなどが押しつぶされ野菜生産や出荷が出来ない。消費者は食料の確保に困る。要するに生活のすべてが天候次第で死活問題に直面している。

今日も一日、空の色は青いがサムーイ。

チキンレースの様相 2006/02/04 (土)

暦の上では春の気始めて立つ立春。今朝、顔を洗ったタオルが干したいかのように硬くぴーンと張っている。外の温度はおそらくマイナス 4~5 度くらいになっているまだまだ厳しい寒さが続く真冬日である。

山本町発注の公共工事に絡む談合事件が発覚した。

悪業愚行をしてはいけないと百も承知していながら、それでもやってしまうのが人間なのだのと、みんな分かっているながら、なかなか出来ない。みんな汗水流して働いている。

嶋工建設は、山本町町議会政治倫理条例が出来て議員をやめて仕事を選んだ。近藤吉雄町議は、さまざまな悪行三昧で議員辞職した。高橋金正議長は高橋土木が受注した公共工事がこれまた政治倫理条例に違反するとして議員辞職した。

古くから選挙がある度に、元北秋機材の近藤兄弟 V S 高橋土木 V S 嶋工建設 V S 石井工業など等の構図は、山本町の政争の愚具となっていた。

秘密に携わるものにつきものなのが裏切りである。チキンレースの様相を垣間見るがこれを機に出す膿を絞りきって、新町・三種町になって欲しいものだ。

データーのバックアップはこまめにやらないと 2006/02/03 (金)

インターネットなどホームページなどの関連は仕事場にあるデスクトップを使うが、普段はノートパソコンを使って仕事場の別棟にある居間で作業をする。

このノートパソコンでは外壁などで電波がさえぎられるため、上手く接続する時もタマーにあるがインターネットはもちろんメールさえ出来ない状態になる。そのため、二度手間作業と知りながらそれが予定原稿になったりして溜まった状態になる。

昨日、どこをどうしたか分からないうちに気がついたら大事なメモリーが消えていた。ホリエモンのパソコンのようにひっくり返したら記録が出てこないかと雪が降って寒い中を、パソコン操作を教わりにいく。あれやこれや、先生から知恵を出してもらったんだけどやっぱり消えていた。文書の戒名はあるけれど「真っ白」を上書き保存してしまったためにゴミ箱にもないのだという。時々、こんなミスをしでかしてしまう。バックアップをしっかりとしないとはいけませんでした。

能代は、能代に見合う店作りを 2006/02/02 (木)

なんだかよく分からないけれどパソコンの画面が乱れて「はい」を急いでクリックしたら、今まで保存していた文書は何処へいったものやら真っ白になって消えていた。

ゴミ箱にもない、しっかり消えたか？

気持ちくさっているところへ」R秋田駅前にあるイトーヨーカドー秋田店が「存続」するテレビニュースが入った。

昨年9月、本社が不採算店の撤退リストに発表し、秋田県知事、秋田市長、秋田商工会議所などが慌てて存続を求め、テナント料、駐車場契約料などを値下げした条件が存続につながったようだ。それでも引き続き存廃を検討していると前置きして地元の足を見透かした発言をしている以上、いつまで続くか分からないという心配がある。

親会社は違うが能代柳町のジャスコの場合である。食料品売り場はまあまあとしても寝具、衣料品売り場などは品揃えや接客など改善する必要があるのではないか。テナントに入っていた店はなぜ撤退してしまったのか、周辺の商業者が集まって能代に見合う店作りについて、そこを利用する市民の意見をもっと吸収していただきたいものだ。大型店出店の計画よりも優先して。

節目のとき 2006/02/01（水）

能代山本のあちこちの地域で厄年を迎えた42歳男性、33歳の女性の厄払い蔡が行われ、お互いの健康に気をつけてこれからの人生を見つめ直すいい日となる。

また、還暦を迎えた人たちは、これまでの悔いのない人生を振り返り、新たな人生のスタートをそれぞれに誓ったに違いない。

去年の私がそうであったように。



形式美を整えて次の候補者選びへ 2006/01/31（火）

産廃問題は直接、自分が引き起こしたという記憶はないことにして
妹夫婦ふたりの身内が迷惑をかけたのでここはやはり腹を切る が
新市の市長選はあきらめても他の選挙で出馬するかもしれんから
ほんとうに死ぬわけには
いかん！

今日の地元紙・北羽新報のトップニュースは、能代市と二ツ井町の合併に伴う新能代市

長選に、立候補の注目がされていた県議会議員の能登祐一氏が、不出馬を表明したことが大きく報じられている。決してこころ穏やかではないこと察するに余りあるが、次の候補者選に門戸を広げた美しきかな形式の英断を評価するも、今後の政治の関りをまったく否定していない。

「産廃問題」を十字架に背負いきれず新市の市長選に立候補を断念せざるを得なくなった能登氏に比べ、片や先の市長選では「能代市の長年の大きな課題である旧能代産業廃棄物処理センターの最終解決の道を探り、子供や孫の代に問題を先送りしません。旧能代産業廃棄物処理センター問題を解決します。」と、自宅まで訪ねて来て、能代産廃を解決しよう、助けてくれと言ってきた豊沢氏が、市長に当選するや公約は、口先ばかり！に、終わった。

逆に産廃問題の根幹を知らないものが、今、新たな産業廃棄物処理施設を設置しようとしている一民間企業をバックアップすると、12月議会で明言している。

財資力のない一民間企業に産業廃棄物処理施設の管理・運営が出来ないことは能代産廃の負の遺産を背負わされて骨身にしみて分かっているはずではなかったか。

辛酸な闘いに汗と涙を流した住民の心を知らないやり方だ。

愛犬家の置き土産 2006/01/30 (月)

私たちをうろたえさせた早すぎる寒波の襲来と大雪が一休みして、ここ数日温暖に変わった晴れたお天気が続いている。久しぶりに冬道を歩くと、溶け出した雪の塊に混じって犬の糞があっちこちに露見しているのが目立つ。犬の散歩はいいが、雪の上の糞だから「まゝ いがべ」と糞を片付けずに放置してしまう愛犬家がいるからであろう。気をつけて歩かないと糞に足を取られて転びそうになる。

今日、午後から能代市議会環境産業委員会の能代産廃非破壊調査結果などの勉強会があるという。県職員が説明に向かう午前中に「産廃特措法」に基づく環境対策工事に着手するため、安全協議会を立ち上げたその規約(案)を持ってご挨拶に見えた。次の段階に進んだことをすぐに他の団体に連絡をした。

夜、「能登氏は市長選に出ない」と、某氏から電話が入ってきた。後のことは明日に考えよう、とりあえずその決断を歓迎して今日の一日を閉めた。



厳寒に耐え切れず、冷たい雪の上に実を落とすナナカマド

うれしくてねむれない 2006/01/29 (日)

孫たちが買い物から帰ってきた。背負って見せてくれる自分よりはるかにでっかい赤いランドセルにはお父さんから名前を書いてもらって、筆箱にはお母さんから名前を書いてもらってと喜んでいる。久しぶりにお目にかかるランドセルは、なかなか高価だが軽くてそして機能的に出来ていた。

今度は机が欲しいといっている。文房具店に並んでいる新入学児童用の机は、機能的にはどうか首を傾げたくなるほど袖机などデコレーションが派手で、その値相場は4万円から8万円、十数万円となっていて、先だって横目でちらりとみて帰ってきたばかり。

親は自分の経験から「机はなんもつかわね」といいながら、「机をどこにおけるか、ばあさんと相談してから」と孫に言っているらしい。そこで孫は古い机はあっちに寄せて「わたしの新しい机をここに」と、自分の部屋の配置をかんがえている。

ランドセルにおまけつきの目覚まし時計を早速取り出して寝たはいいが、興奮してなかなか眠れないらしい。

前頭葉テストで休憩 2006/01/28 (土)

秋田魁新報に、「新聞の音読10分で能力アップ」という川島隆太東北大学教授監修の冊子が入っていた。早速音読トレーニングの前に前頭葉テストで能力をチェックしてみた。あれ、あれ、まちがえること、間違えること。記憶力、判断力、創造力のレベル調査に最適。



春の念願成就にラストスパート 2006/01/27 (金)

「能代山本の合併市町村」とかけて「受験生」と ときます
そのココロは「春の念願成就にラストスパート」

昨年の今頃、能代山本市町村合併問題がめまぐるしく動き、「7市町村」が崩壊して三つの枠組みでの合併は、米代亭杉丸様の時事なぞかけのとおり、いよいよ「新能代市」「三

種町」「八峰町」の誕生のため、それぞれの地域がラストスパートをかけている。

今日、能代市議会全員協議会は最終回となる第 12 回能代市二ツ井町合併協議会へ提出される報告、合併協議会廃止の協議案件について説明を聞いて、了承した。

身辺整理 2006/01/26 (木)

最近の私は、文明の利器のおかげで真冬の快適な室内でひたすら目に付く雑多な物の整理に追われている。ある雑誌に、年を重ねたら身の回りから思い切って物を減らし、身軽に暮らすのが上手な生き方と書いてあったような。それは理想ではあるけれど。私の身の回りのものはなかなか減りそうにもないようだ。

ところで誰にも頼むことの出来ない心の整理もある。

夜になって、知人を誘い合って「お茶」に出かけた。まあ、まあ話が尽きない。

誰でも最期は一人だよってことになって、家族の縁より、選べる他人同士の縁を大切にしたいほうがいいと結論付けた。

つき合いが上手くいかない信兄の状況を少し掻い摘んだ悩み話をした。きっと私の心境に配慮してくれた言葉かもしれない。

ランドセルはどう選ぶかな 2006/01/25 (水)

春の新入学に向け、百貨店や量販店のランドセル商戦たけなわである。

来春の入学通知を受けた孫は、説明会に出席するお母さんと一緒に一日入学体験をしてきたようだ。「小学校に行ってもやっていけるかもしれない。きっと大丈夫」と、自信たっぷりに帰ってきた。ランドセルは何色にしようかな、赤がいいかピンクがいいかとナと、あれこれ想い描く希望に胸を膨らませている。

洋服と組み合わせられるようなデザイン色の好みも尊重したいが、ばあばとしてはその個性を強調するよりも機能的でかつ安全・防犯面でもポイントを置いて選んで欲しいと思っている。

消防の広域化を認める 2006/01/24 (火)

能代市議会は今日の臨時議会で、12月定例会議で継続審査となっていた消防の広域化に関連する3議案について賛成多数で可決した。

消防行政のあり方を理解するのに長い時間をかけて議論した。消防の広域化は住民の安全と安心のために必要だとは繰り返して言うものの、能代市議会全員協議会という中で、給料の平準化や人事の交流問題などが次々と質疑されると当局には、私たちが理解するまでの説明を備えていなかった。たとえ議決権のない全員協議会であろうと、もっとちゃんと説明できる準備をしてから議会に臨んでもらいたかった。火種となった説明力不足と提案の手続き上の順序を反省し、使ったエネルギーが活きる消防行政をしっかりとやっていってほしい。

「能代山本広域市町村圏組合消防本部」は、三市町村合併前の3月1日にスタートする。

求心力の低下 2006/01/23 (月)

捜策からわずか1週間で東京地検特捜部がライブドアの堀江貴文社長を逮捕した。法の網のかからない部分を駆使した確信犯の不正追及を徹底して欲しい。

資本金たったの600万円で創業したインターネット会社から、断念したもののプロ野球・近鉄の買収構想へ、フジサンケイグループをあっといわせたニッポン放送敵対的買収の仕掛け人となって、衆議院選挙に出馬して落選。とうとう「逮捕」されて堀の中に転落してホリエモンは消えた。

一方、能代商工会議所の専務解任問題は、会頭、副会頭、専務の執行部全員の総退陣と決まったようだ。

ライブドアも能代商工会議所も、求心力の低下以外の何ものでもない。

「経営責任」を問うなら 2006/01/22 (日)

ブルガリア、モンゴル。相撲に興味はないが、最近少しばかり大相撲はまるでオリンピックと錯覚を起こしそうになっていた。日本型体形した栃東が優勝して、君が代を聞いて、ああ、やっと日本の国技だと、安心した。

山と積んだ新聞を束にして括っていたら、2006/01/13(金)の朝日新聞のトップ記事に、財政難に陥った自治体に対し、民間企業と同じような破綻法制の適用を検討していることが12日、明らかになったとある。つまり、財政悪化の駄目な自治体には破綻させて「首長の経営責任」を明確にするということらしい。

国が交付団体を減らすために地方自治体に破綻責任を問うなら、借金に埋もれ傾いた国の財政責任も問われてしかるべきだよね。

少子化対策・出産費用無料化 2006/01/21 (土)

小泉チルドレンのひとり、猪口邦子少子化担当大臣が13日の記者会見で「出産にかかわる一切の費用をただにしたいと、出産費用無料化導入に意欲的発言をした。

あれ、そんなことでいいのかなと思っていた。

出産費用は定期健診から入院・分娩まであわせて平均45万円から用意しなければならないようだ。そのうち現在の出産支援として、公的健康保険から「出産育児一時金」として30万円が支給される。ただし、この10月からは35万円に増額する。

我が家にもふたりの小さな家族がいるが、一人の女性が生涯に産む子どもの人数は限りなく一人に近い1.29。出産費用無料になればそれは若い夫婦にとっては財政的に助かる

だろうが、だからといって2人、3人の出生率が上がって本当の意味での少子化対策になるのだろうか。

確かに子どもの数が少なくなると、お金を出して制度を支えている働き手が減って年金、医療、介護など国の制度にも影響が出てくる。

子どもをおんぶして抱っこにして、尚且つ遮二無二仕事をしなければならなかった私の子育て時代と、尺に計れない時代になっている。

子どもの養育に経済的にもさほど困っていない人たちの机上の出産・子育て論より、根本的な問題点は何か「現場の声」を聴く必要があるのではないか。シングルマザーを含め若い人たちに、経済面もさることながら、仕事と家庭の両立、子どもの養育と教育費などを根源とした調査の協力をしっかり求めてみたらどうだろうか。

第一、出産費用無料の財源はどうするのか大臣に聞きたい。増税路線にすりかえられるのだけはごめん被りたい。



安全の崩壊・ビルに骨なし、肉に骨あり 2006/01/20（金）

輸入再開後まだ、1ヶ月というのに、ショーがないなあアメリカも。

特定危険部位の除去の義務付けを条件に決めて、昨年12月からアメリカ産牛肉の輸入を再開したが、早くも骨抜きになってしまった。いや、骨抜きではない、骨付きだった。

耐震強度偽装問題では骨が要るところに骨はないし、アメリカ産輸入肉には危険部位につき骨が要らないところに骨がついてくるし。安全の崩壊だ。

あゝ、ホリエモンがムイチモンに 2006/01/19（木）

ただ、ホリエモンのその桁は並外れている。

検索が入る16日の一兆円強のライブドアグループの時価総額は、バブル崩壊して6割以上減少の4千億円に消えた。成功した若き企業家ホリエモンは危ない金儲けの虚像が暴露されてムイチモンになろうとしている。

ライブドアグループ関連会社で堀江貴文社長の知恵袋といわれる側近が、沖縄でなくなった。自ら口を封じなければならない大がかりな取引があったことを匂わせる。すでに堀の堀の崖っぷちにいる自分をホリエモンは想定しているかもしれない。

意図的な答弁漏れ それが事実だから 2006/01/18（水）

12月議会で市長は、一民間企業が県有地である能代工業団地に設置する新たな産業廃棄物中間処理施設を全面支援すると明言したことから、私は、設置するその事業の概要等含め6項目にわたって通告、質問をした。この会社の役員に市長の後援会の関係者、影の市長・中田満議員の子息たちが立ち上げた会社であることから、支援は行政主導なのか、それとも市長の政治的主導なのかと訊いた。答弁がなかった。逃げたナと直感したが、あとで答弁書をもって確認すればいいとして他の再質問を続行した。

12月議会議事録は2月の中ごろでなければ出来ない。私は、市長答弁書を取り寄せた。市長の答弁書には、やはり、この1項目だけに限って答弁は作成されていなかった。答弁作成者の担当課職員および議会事務局側にも確認した。

私は議会便りの市長答弁欄に空白が出来るも仕方がないと考えた。意図的な「答弁漏れ」それが事実だから、あえてこの部分を掲載することにした。空白はまずいではないかという職員の気遣いに譲歩したら、「ない答弁」を他の答弁を引用して「あった」ことに見せかけて議会便りに掲載すること自体が市民を欺くことになる。「事実を載せて」と告げて、10時、秋田市議会議員研修会に出席するため、秋田市に向かった。

阪神・淡路大震災という日に 2006/01/17（火）

震災から11年が経った。その間にも、各地で地震災害が起こった。阪神・淡路大震災がきっかけとなって、「減災」の考え方が理解されてきた。犠牲から学び、災害に備える。安心して住める街づくりを最優先の課題である。

しかし、去年の秋から首都圏を中心に、マンションやホテルの耐震強度を偽装した事実が次々と明るみに出た。皮肉にも震災がおきたこの日に、衆議院国土交通委員会ではマンション建築主「ヒューザー」の小嶋進社長の証人喚問があった。参考人のときのあの雄弁な社長はどこへ行ったのだろうか。「訴追の恐れがあるため、証言を拒絶します」を、20回以上も繰り返した。

喚問に自信を持って追及する国会議員は、結局、「構造計算書の偽造を、いつ、どこで、知ったか」姉齒秀次元建築士との関係はもとより、新しい事実を何も引き出せないままに終わった。

今日午前中に、能代産廃センターに行く。

昨年暮れの強い風にあおられ、また正月5日から降り積もった大雪で、浅内財産区有地「蒲の沢」の木が倒れ管理道路をふさいでいた。午後から浅内財産区委員は、県、市の協力を得て処分場からの滲出汚水を集水しているピットの管理に影響しないよう、除雪と倒れた木の後始末をする。



雪と倒れた杉の木や桜で、滲出水集水ピットまで辿り着くのに難儀する（06・01・17）

風説の流布 2006/01/16（月）

「森タワービル」と聞くと、アぁ、あのビルもそうだったなと、月家賃 100 万円の「森タワービル」に入居していた能代産業廃棄物処理センター東京事務所を探し歩いたあの時の頃を思い出した。

強制捜査を受けたからといって、必ずしも罪を犯した と、決まったわけではないが、しかし、「ホリエモン、いつか私も」と、世間の注目を集めてきたライブドアであり、その広告塔ホリエモンである。

思わずテレビを見ながらメモを取った。容疑の一つがうその情報を流して株価を引き上げたという「風説の流布」が上げられている。

インターネットの関連会社は何でセシールの通販会社等を企業買収しているんだろうなと主たる業務に疑問に思う。借金 600 万から 10 年で一兆円になるには 。

私は株の証券取引のことは分からないが、家宅捜査に入る東京地検の意気込みから、これはかなり危ない橋を渡っている 。と、思いながらテレビを見ている。

「くされ縁」とは 2006/01/15（日）

今日午後、南部公民館で開かれる「人と自然・ラムサール条約と農業」と題した講演を聴きにいく予定であったが、亡くなった同僚議員のお別れの会に参列した。彼のお人柄であろうたくさんの方がお焼香に駆けつけていた。

ところで、親が子の法事をするときに「逆縁ほど悲しいことはない」と、法話を聴くことはあるが昨日、お寺さんの最後の言葉に故人とのつながりを「くされ縁」という言葉で紹介していた。「くされ縁」とは一体どんなときに使う言葉なのかなぁ。

くされ縁って、根元まで腐って、いくら水をやろうがそれ以上育たないことを言うのが正しいのかなと思っていたけれど 。

人間同士の関係で、単純に整理は出来なく、なんだかよく分からないけれど気が合う「くされ縁」にどっぷりつかっているところ？

広辞苑には、「離れよう、縁を切ろうとしても断ち切れない、好ましくない関係、特に男女の仲について言う」とあった。



南から流れ込んだ低気圧が東に通じたおかげで 3 月上旬並みの高い気温となった今日は、明日から小中学校の 3 学期が始まる市内のあちこちで、通学路を中心とした大がかりな除排雪作業となった。(写真は、浅内で)

流した汗は報われます 2006/01/14 (土)

デジカメからパソコンへの講習会に参加した。あまり能書きを読まないうちにエイッパッとパソコン操作するものだから、気がつく時折写真がなくなったり、ちっとも圧縮されてなかったり、最悪は打ち込んだ文書が消えたりして慌てる。和気藹々の講習会は朝 10 時から午後 4 時までたっぷりと楽しんだ。

会場となっている広域交流センターの事務室にちょこっと顔を出した。なんと 3 人の担当職員が土曜の休日を出勤して消防の広域化に向けた作業を続けていた。「徒労で終るのに何でそんなに頑張るの」と、思わず冷やかして冗談を言った。「議会が広域化に G O サインを出したときにあわてないよう、しっかりその体制を整えています」と、もくもく仕事に勤しむ職員。「早く結論を出してけれえ」と悲鳴を上げていた。

環境大臣賞に学びたい 2006/01/13 (金)

昨日 12 日環境省は「環境・共生・参加まちづくり表彰」で環境大臣賞受賞団体を発表。能代市と合併する二ツ井町が受賞した。合併処理浄化槽の推進、車依存を見直すための自転車のまちづくり、地域資源ゼオライトを使つての水質浄化などに汗を流した環境対策が評価された。

生活雑排水等污水处理に公共下水道事業を持たない二ツ井町が、合併処理浄化槽で対応するのは快適な生活環境に是非とも必要な事業だ。合併処理浄化槽設置時にはかなりの自治体負担があるときいているが設置者のメンテナンスを含めた推進の効果、自転車のまちづくり効果は何かどのようにあったのだろうか、存分に評価された費用対効果も合併したそのあかつきにゆっくりとお話をお聞きして学びたい。

「身辺整理」の開始 2006/01/12（木）

12月議会を中心とした3回目の能代市議会便り編集委員会を開催する。少しばかりのカラー刷りになるといよいよそれらしくもなる。前回から指摘している市長答弁の誤りのある箇所は再度修正をお願いしたが、最後の仕上げは来週18日。

書類やら衣類やら心の問題やら、少し整理してスリムにしようかな。そんな気になって「身辺整理」を開始した。

説明力不足を克服してください 2006/01/11（水）

年はじめの記者会見で市長は、消防の広域化に関する国の動向について、消防庁が人口30万人未満の消防本部を統合する新法提出の動きがあると発言していた。人口30万人といえばここでは大館市から先までのエリアになるのではないかと。という首を傾げたくなることに突き当たった私は、この7日にインターネットを使って消防の広域化に関する国の動向を調べてみた。あれ、あれ総務省の消防関係にはそんなことナ～ンもそれらしきことは載っていなかった。

今日、午後4時から消防の広域化について市長との懇談会を設けた。助役からその資料が出された。消防広域化の推進計画は、県に聞いても分からず、消防庁の事務的会議が始まったばかりであり、情報収集に努めているということである。

消防の広域化についてはさまざまな議論を重ねた結果、12月議会の継続審査となった経緯から大方の議員からGOサインが得られようとしているときに、市長の新法発言は、「こんな軽い市長に消防の統合を任せていいだろうか」と、また、新たな火種になってしまう。

市長にその能力がないといえればそれまでだが、従来のお粗末な発言や説明を反省してこれからはもう少しわかりやすく説明できるよう、もっと、研究、努力していただきたい。

上手く育つのも「水加減」しだい 2006/01/11（水）

珍しく青空がまぶしいくらい晴れた日の9日、友人からお誘いを受けていた「新春洋ラン展」に出かける。

ごみ問題に取り組んでからこの方「私事」では、何事も出来ず、どこへも出かけられずの連続だった私に、「やっと、出かけて来れるようになったね」と、流した汗を生かしてくれる言葉でK子さんが迎え入れてくれた。

温室で丹精込めて育て上げられた洋ランの美しいその姿にただただ見惚れた。エナジウムパークでは子どもたちが熱帯植物の写生に頑張っていた。



「お花に直接水を掛けるとこんな（黒い斑点）になっちゃうの」と、失敗談を交えながら説明してくれた。「水加減」の大切さを教わってきた。

国は、除雪費不足の救援を 2006/01/10（火）

昭和 48 年以来の記録的な大雪となっている県内。高齢者宅の雪下ろしや除雪に自衛隊派遣要請をしたりして対応しているが、除雪費用も膨大に自治体財政を圧迫している。

昼のニュースによると、国の支援対策外の市町村が負担している除雪費の二分の一を国が補助する検討を始めたようだ。

県の除雪費は国が三分の二、県が三分の一をそれぞれが負担する。しかし、市町村には国からの補助が一切補助されていない。

秋田県は、今後も積雪が続けば除雪費用が持たなくなると、国に対し、国庫補助の上乗せや、昨年、補助適用外の市町村道へ設けられた「幹線市町村道除雪費補助の臨時特例措置」適用をこの 10 日に要請しようとしていた。

豪雪に伴う市町村の除雪費不足の異常事態である。



雪だるまならぬ雪ぐるま（06/01/05）



屋根からせり出した雪（06/01/06）

人口減少時代の新成人 2006/01/09（月）

成人の日の今日、全国各地で成人式やイベントが行われている。総務省の人口推計によると 2006 年を二十歳で迎えた新成人は、昨年より約 7 万に減る約 143 万人にとどまって

いるという。

49 年生まれの団塊世代とされる第一次ベビーブームと、その世代が子どもをもうけた第二次ベビーブーム期を最後に「人口減少時代」が続く。

今年の新成人を迎えた 1985 年に生まれた年はどんな年だったろうか。ホテル火災があり、「逆噴射」で日光ジャンボ機が墜落した年ではなかったカナ。



自動振り替えの光熱費の使用量と料金を書き込んでおきましょう 2006/01/08 (日)

昨年一年間のたまった領収書とつき合わせて、銀行の口座から自動的に引き落としになっている通帳を見る。細かい数字では見えてこなかった年間を通しての推移が一目で分かる。

電気代やガス代はどの月に上がりやすいのか、この月は、なぜ急に増えたのか。自分なりの反省点が見つければ、しめたもの。昨年の暑い夏、そして今年の冬は灯油代の使用量も料金も馬鹿にならないほどグラフに書けば右肩上がりだ。

料金の引き落としだけでは、なかなか節約の意識は芽生えないもの。一年間、毎月の領収書を見て、しっかり毎月の光熱費の数値を書き込んでいけば、節約の効果も眼に見えて分かる。

情報満載のインターネットを利用する 2006/01/07 (土)

インターネットで調べ物をして一日が終わる。

廃棄物とリサイクル関係について。消防の広域化に関する国の動向について。市街地活性化に関する法の整備状況について。知人に依頼されていたがんの治療にかかわる薬と医療関係など。さすがに情報はあふれていたが、がんに関する薬と医療関係はさまざまに難しい問題を抱えている。

私は 15 年、16 年度と二回、社会保険庁に社会保険病院存続の陳情のために市長に同行した。対応したその時の審議官から医師不足を指摘されてきた。それを象徴するかのよう、今晚のNHK総合テレビで、日本のがん医療を問う患者と医師の討論が放映されていた。

昨年奥さんをがんで亡くした知人は自分なりにその経験を分析しながら医師不足や抗

がん剤の治療のあり方、病院の格差による能代市内の病院は大丈夫かなどを、無念さをこめて私に訴えていた。

同じ苦しみ悲しみ、辛さを味わったがん患者や、家族の同じ体験をした者の姿や発言には、説得力がある。「がん患者でない人がいくらいいことを言っても説得力を持ちません」といわれないように、遅まきながらもう少し実態を調べなくてはいけない。

議会便り編集委員会は、いつでもマイペースで出席 2006/01/06（金）

大雪のため、出席委員を待つことにして午後 1 時から 10 分遅れて能代市議会便り編集委員会を開催する。2 回目の今日は、掲載記事、レイアウトなどの点検、一般質問者への原稿の確認、編集後記原稿作成依頼の作業に入る。

文面の表現について協議が続いている中、某 S 委員は 40 分を過ぎると「私、用事があるのでこれで帰ります」と、さっさと立ち上がって帰ってしまった。

最後に年 4 回発行の予定である能代市議会便りを、二ツ井町との合併を前にした 3 月議会の様子などを盛り込んだ能代市議会最終の議会便りを、何とか予算面をやりくりして、市民の皆さんにお届けすることが出来そうであることを確認したところへ突如部屋が開き、先ほど帰ったはずの某 S 委員が現れる。

「ハイ、少しにっこり」といいながら職員に自身のホームページに掲載すると思われる写真を撮ってもらって 。 帰った。 あくまでもマイペース、いつでもマイペースだ。

私たち凡にはとても出来ない特異な技を持っているお方だ。

夕方、亡くなった知人にお別れに行った帰り。近所の一人暮らしのおばさんが暗がりの中で玄関につながる道路の雪よせをしていた。見るときれいに除雪されているが、積み込まれた雪の塊が気になるらしい。几帳面な方なのだろう。道路向かいにスコップで運んでいる。う～ん。確かに自分のところはそれでいいのだろうことは確かだが、雪の塊を置かれた向かいの家も困るのでは？ と思いつつそれよりも「おばさん 積み込んだ雪の影から車が走ってくるよ 暗いから車に気をつけてね!」と、声を掛けてきた。

今晚危ない女手の暗がりの作業を見てしまったので、少し、様子を見てみようと思う。

お年玉の使い道は？ 2006/01/06（金）

年に一度のお年玉。お年玉を心待ちにしている子供たちは、親類が多い家庭では小学生でも平均？万円単位だと伺っている。貯金するのだろうか 欲しいものを買ってしまうのだろうか。

十年一昔といえど二昔半私の場合である。お年玉を含めお祭り、お盆にいただいた小銭まで全部貯金し、その額は百万を超えていた。結婚した子にはその通帳を渡した。独身の子達ふたりの通帳は、いまでも私が保管中。

今、孫は、お年玉にまったく関心さえ示していない。「お母さんにあげる!」と、いつている。何時か、お年玉の価値に目覚めたときは、やりくり体験をして学ぶ機会を持って

欲しい。

除排雪作業へ市民協力を 2006/01/05（木）

県内全域で大荒れの天候が続いている。朝、ドアがあけられないほど雪が積もっている。一晩でおそらく 30 センチを超えるほど降ったのではないだろうか。家族総出で雪寄せに汗をかく。障害を抱えた一人暮らしをしている近所の高齢者宅には、市職員が除雪の応援に駆けつけてくれた。

能代市は、早朝から、日中から市民生活の道路を確保するための除雪作業に努めているが、今年に対応が追いつかないようだ。

市は、自治会や地域が除排雪作業を行う場合、オペレーターつきでトラック、積み込み機械などを無料で貸し出している。

市や市民、地域が一体となって協力し合うことが大切だ。



能代市の不利益・質疑なし従明利君 2006/01/04（水）

正月休みが終わって、それぞれが職場に仕事に帰る頃になる。テレビには寺田秋田県知事の年頭の会見様子が入っている。昨年の県議会が紛糾したことを受けて「説明不足を克服したい」と、抱負を語っている。

能代市長はどうだろうか。「行政と議会は車の両輪だ」言いながら、しかし一方で「議会とギクシャクしているほうが市民にとって何が問題となっているかがわかりやすい」といったのは 3 年前。

昨年の 12 月議会でこんな答弁がある。まちづくりについて市長の具体策が見えないと答弁漏れの議事進行に対して、「本日、合併後の新市の市長選に出ることを明らかにした。新市の市長になってから答弁をする」と答えた。市長の状況判断欠乏症に質問者はあきれ返り、聴いている同僚議員もヒヤッとした。

市長は「じゃわめぎ」に陶醉した結果、議会との関係は確かにお望みどおり「ギクシャク」しどおしだった。しかし、いつまでそんなことをしているのか。消防の広域化を含めた問題が山積している。

議論することがイコール市長の反対勢力だと決め付けて自分以外の議員を下馬評価するものもあるが、そう、しないでいただきたい。

議会議決が必要な消防の広域化にかかわる部分について議案提案したのは 12 月議会。それまでは、議決権のない議会全員協議会で「説明」ととどめる段階にあった。市民の負託を受けた議会議員の使命は、当局提案を十分に審議するための議論をし、その上で結果を出さなければならない。豊沢提案なら質疑なし何でもオーケーの同じ方向を向いた従明利君は能代市にとっては不利益な存在だ。いらない。

最新式デジタルと長針と短針のついているアナログのちがい 2006/01/03 (火)

電池切れが激しくなった携帯電話を買い換えた。デザイン色は新能代市章のうちブルーカラーだ。「いいでしょ、これ」と孫には見せびらかすように自慢したが機能がいっぱいですっぱり分かん。カメラはどうだ、登録はどこだと最後に画面表示の時刻しか表さない最新式デジタルがいまいちじっくり時間を読みにくい。パッとみて 11・23 と表示されると、一瞬、「何時何分?」となる。たとえば仕事をしていてこれまでの時間計算もデジタルではすぐに分からない。長針と短針のついているアナログだと時間を丸ごと教えてくれるから一目で認識できるんだけど、言いながらとうとう娘の世話になる。「電話を受け取る、掛けるだけの携帯だったらもっと簡単操作できる電話でよかったんじゃない」と。ついでに「今年は携帯電話を留守番させないでちゃんと携帯してって頂戴!」と、厳しい注文も付く。

せっかく年の初めに 16 歳からスタートを切ったつもりが、年を取っていくとは、こういうことなのだなという実感を持つことになる。

人生を全うする前提となるのは、まず、健康でいること 2006/01/02 (月)

年輪



平均寿命 男 78.32 女 85.23 寝たり起きたり一生を終える男女の平均寿命は 81.77 である。

これとは別に、男女の差別はいけないが生きる寿命の男女の区別がある。

健康寿命 男 71.4 女 75.8

健康で明るく元気に生活し、実り豊かで満足できる生涯、つまり痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる男女の平均健康寿命は 73.6 である。

それこそ、生涯夫婦、男女が共同＝協働してお互いを共育する寿命である。

長寿社会を、美しく生きる新しい考え方が必要になっている。しかし、現代人のからだにはさまざまな刺激、強いストレスがかかっており、私たちは日々、からだを気づかわざる得ない状況にある。どんな人生を全うするにせよその前提となるのは、まず、健康でいること。

正月の今日一日、何事もなく過ごす。何事もないことは何でもないことではなく、尊いことなのだと、思い知らされる。

『あけましておめでとうございます』 2006/01/01 (日)

平成 18 年 **迎 春**

『あけましておめでとうございます
ことしもよい年で
ありますように』



戦後還暦にプラス 1 のわたしは、16 歳からはじまる青春の気持ちでスタートを切る年にしたい。